

2024年度 学校関係者評価委員会 記録

<開催概要>

【開催日時】 第一回 2024年9月17日（火） 18:30～20:00
第二回 2024年11月13日（水） 18:30～20:30

【開催会場】 東京YMCA医療福祉専門学校 15 教室

【出席者】 山野 晴雄氏 吉野たけし氏 小泉 昌広氏
永井 純氏

【列席者】 小野 実氏（校長） 倉持有希子氏（介護福祉科学科長）
中村由美氏（作業療法学科学科長）
望月 温氏（事務長）

<次 第>

・議事

自己評価報告書 説明

校長

「自己評価報告書 2024年5月1日現在」について校長より説明を行った。

両学科の新入生の所属比率、及び高校新卒、留学生の比率/傾向について説明があった。

併せて、広報スタッフ体制と SNS 活動、EPA 学生の在籍状況、及び募集活動について説明があった。

記録別紙意見

◆中村 作業療法学科の募集状況について

多摩リハビリテーション専門学校に加えて、社会医学技術学院・関東リハビリテーション専門学校が昼間3年制に移行し、多摩地区内で4校が学生を取り合う状況になっている。独自の強みが出しづらく、特待生制度などで工夫したいと考えている。

→小野

OTも留学生の受験が増えているが、出口のことで考えると、実際の就職状況はどうなっているのか？

→小泉

外国籍人材の採用は増えてきている。インドからの紹介も出てきており、国籍は多様化している。外国籍人材は面接で良い印象を受けていたが、実際に採用すると短期間で退職する方もいる。

→永井

病院での採用に外国籍人材の応募はまだない。
採用に関しては、そもそも作業療法士の申込が少ない状況。

→山野

引き続き、募集に関しては多摩地区中心に進めて欲しい。
SNS の更新に関しては、もう少し学生の日常の様子を取り上げて良いのでは？
資料請求者、来校者へのフォローアップ、追跡調査をしっかりとやるべき。

＞入学に結びつかなかった来校者の情報収集は難しい。入学者への詳細なアンケートを実施していく。

→吉野

学科の定員を減らして、他にどこで学生を増やすのか（専攻科等）を考える必要がある。

今の学生の意見として「理学＞作業」という言葉の響きで恰好良さを感じている。社会人・留学生というキーワードが上がる中で、何をインセンティブにするかを考える。例えば、社会人は「学費半額」など違う側面で考えても良いのでは？

＞インパクトのある特待生などの制度制定について検討をする。

→小野

来校者へのフォローについては、アナログな手法であるが、DMはがきに教員が手書きのメッセージを添えて郵送している。

発送枚数は200枚程度であるが、少数ながら「手書き」に温かみを感じて、来校に繋がるケースもある。

定員減の判断については、「高等教育無償化」の定員充足率の条件問題もあり、40名定員とすることとした。削減した収容人数分については、EPA授業の開講により付帯授業収入としている。

→中村

作業療法学科の養成校は「4年制」への移行が中心となりつつある。

＞引き続き認定条件の変更などの情報収集に努める。

→小泉

ユニフォームをお洒落なものに変えるなど、違う視点で見せ方を変え学生募集を増やした学校もある。

＞全国 YMCA ブランディングに沿ったユニフォームを揃えることを推進したい。

以上